



🇯🇵 6月の国内株式相場は大型のバリュー株を中心に持ち直し（図表1）

24年6月の国内株式相場は日経平均株価が月間で1095円18銭（2.8%）上昇しました。2カ月連続の上昇です。中旬までは一進一退の動きでしたが、12日発表の米国の5月の消費者物価指数（CPI）の上昇率が市場予想を下回ったことで、米連邦準備理事会（FRB）の利下げ期待が高まり、国内でもハイテク株が買われたほか、大型のバリュー（割安）株が上昇。日銀の早期利上げ観測が浮上し、金融関連株も大幅高となりました。

🇺🇸 米国ではインフレ鈍化で長期金利が低下、ハイテク株が買われ株式相場は上昇（図表2）

米国ではFRBが6月の米連邦公開市場委員会（FOMC、11～12日）で政策金利を7会合連続で据え置きました。しかし、5月のCPIの伸びが市場予想を下回るなど、インフレ指標の鈍化が目立ち、長期金利が低下。これを受けて、半導体大手のエヌビディアなどを中心にハイテク株が買われ、ハイテク株比率が高いNASDAQ総合やS&P500が過去最高値を更新。一方でNYダウは、やや上値の重い展開となりました。

🇨🇳 中国では需要不足が続き、6月の製造業PMIは2カ月連続で50割れ（図表3）

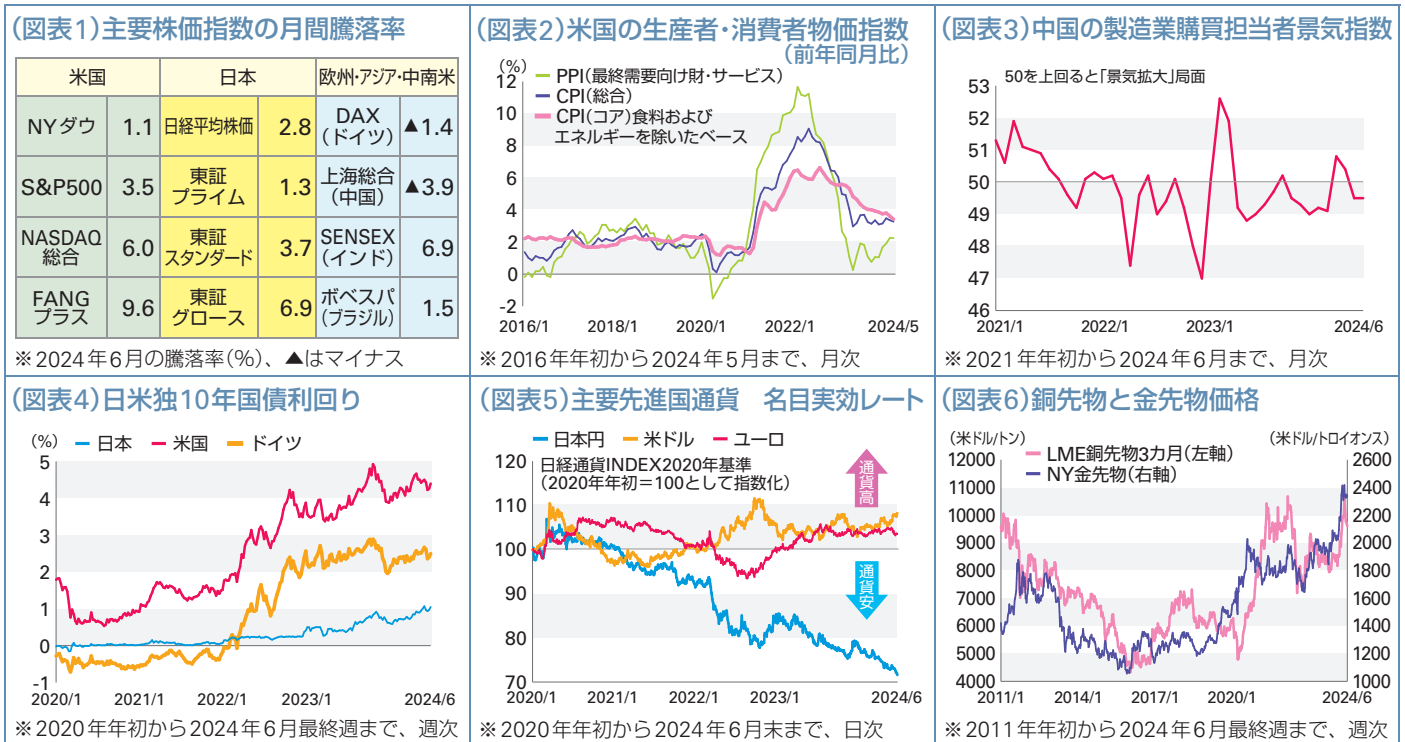
中国国家统计局が発表した6月の製造業購買担当者景気指数（PMI）は、5月と同水準の49.5となり、2カ月連続で好調・不調の節目である50を下回りました。中国の国内総生産（GDP）の3割程度を占める不動産市場の低迷長期化の影響が大きく、新規受注が2カ月連続で50を下回るなど、需要不足が継続。このため、企業の収益改善が遅れており、24年1～5月の民間の固定資産投資は前年同期比0.1%増にとどまりました。

🇪🇺 ECBは4年9カ月ぶりに利下げを実施。ドイツの長期金利はやや低下（図表4）

欧州中央銀行（ECB）は6日に開催した政策理事会で政策金利を0.25%引き下げることを決定しました。利下げは19年9月以来、4年9カ月ぶりです。また、21日発表の6月のユーロ圏の購買担当者景気指数（PMI）は、総合指数の速報値が50.8となりました。好調・不調の節目である50を4カ月連続で上回りましたが、8カ月ぶりに前月比で悪化しました。これらを受け、ドイツの長期金利はやや低下基調となりました。

💵 外為市場では日本円の「独歩安」が進行。日銀の再利上げ観測など浮上（図表5）

主要先進国通貨の名目実効為替レートの推移を比較すると、日本円の「独歩安」が鮮明になります。6月は多くの通貨に対して日本円が歴史的な安値を付けました。これを受け、財務省による円買い介入観測や日銀の再利上げ観測が浮上しており、今後の動向が注目されます。



出所：(図表1、2、4、5、6) QUICK Workstation (図表3) 中国国家统计局統計 より QUICK 企業価値研究所作成

今後のグローバル・マーケットのポイント

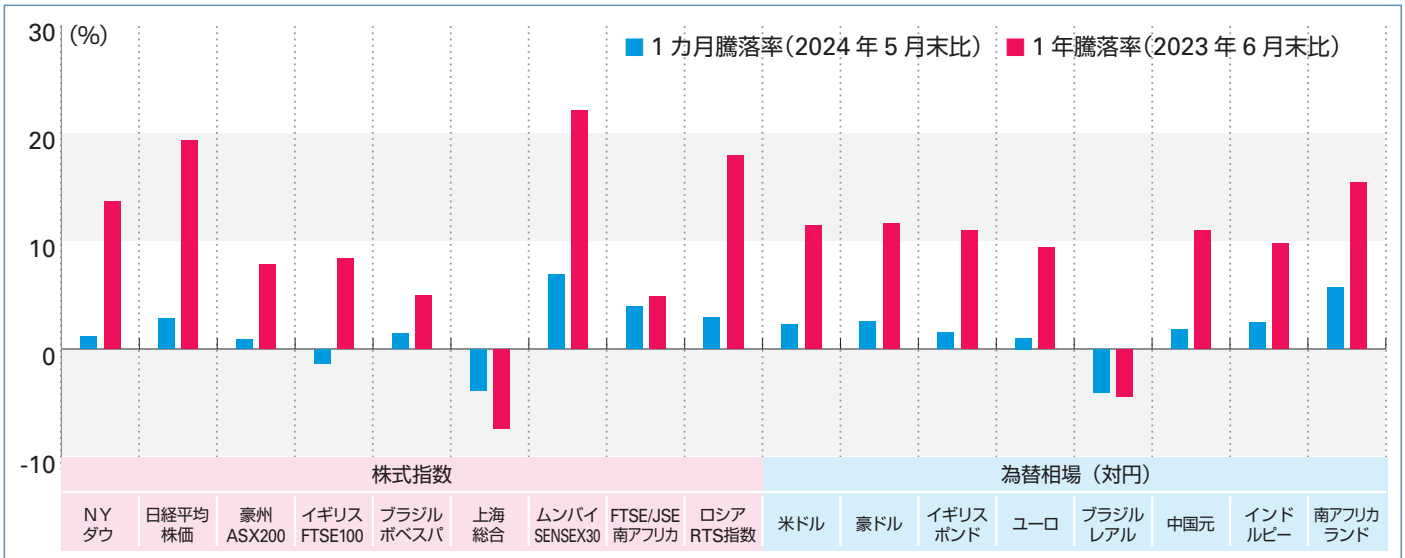
- NY金先物相場は、6月も5月に続き高水準で推移しました(図表6)。特に、ロシアや中国の中央銀行の購入が続いています。米ドルを中心とする国際通貨システムの変化に備えた措置とも言え、将来の波乱要因として注視が必要です。
- 6月はロンドン金属取引所(LME)の銅の3カ月先物も高水準を維持しました(図表6)。世界最大の需要国である中国の景気低迷が続いていますが、大型鉱山の開設が当面予定されないなど、供給の引き締め観測が価格の上昇につながっているようです。

その他の主なリスク

- ① **米国の大統領選の動向**…………… 11月5日に実施される米国の大統領選は、早くも候補者の討論会が始まりましたが、現職のバイデン大統領の高齢不安がクローズアップされました。同じく高齢のトランプ前大統領も裁判を数件抱えるなど、投票日まで波乱含みの展開が予想されます。
- ② **欧州の政治状況の不安定化**…………… 6月30日に実施されたフランスの国民議会(下院)選挙の初回投票では、ルペン氏率いる極右の国民連合(RN)が得票率で首位となった模様です。欧州の政治状況の不安定化が懸念されます。

株式・外国為替相場の騰落率

出所：各種データを基に QUICK 作成 ※日経平均株価の著作権は日本経済新聞社に帰属します。※株価指数は現地通貨ベース(ロシア RTS 指数は米ドルベース)。



イベントスケジュール

出所：各種資料より QUICK 作成 ※各日程は変更の可能性あり。

🇯🇵 国内	🌐 海外
24年 7日 東京都知事選投開票	フランス国民議会(下院)選挙(決選投票)
7月 11日	米国24年6月消費者物価指数(CPI)
15日	米共和党全国大会(大統領候補者を指名)(ウィスコンシン州、18日まで)
18日	中国24年4～6月期GDP
25日	ECB政策理事会
26日	米国24年4～6月期GDP(速報値)
28日	パリ五輪開幕(8月11日まで)
30日 日銀金融政策決定会合(31日まで)	ベネズエラ大統領選挙
8月 2日	米国FOMC(31日まで)
14日	米国24年7月雇用統計
15日 24年4～6月期GDP(1次速報)	米国24年7月消費者物価指数(CPI)
19日	米民主党全国大会(大統領候補者を指名)(イリノイ州、22日まで)
28日	パリ・パラリンピック開幕(9月8日まで)



投資信託・マーケットレビュー

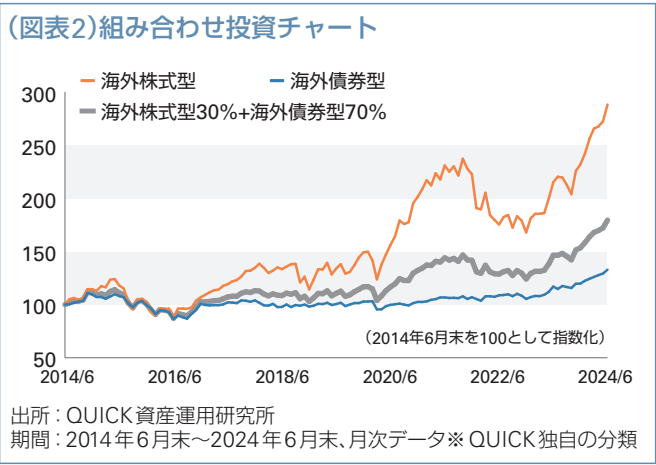
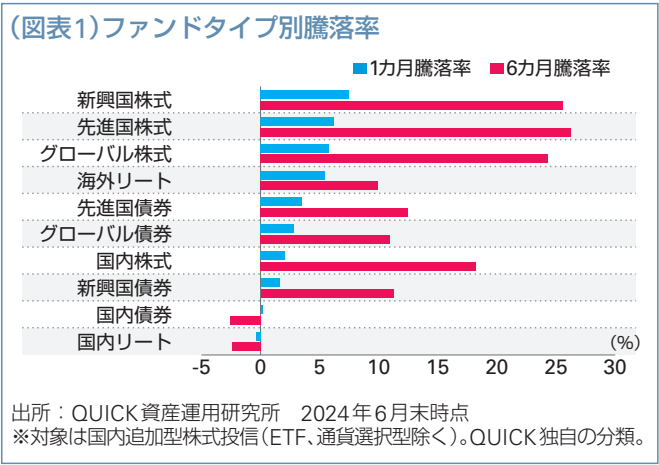
2024年6月末時点

運用成績は「新興国株式型」プラス7%超、資金流入は全体で1.5兆円突破（図表1、3）

- 6月のファンドタイプ別のパフォーマンスを見ると、「国内リート型」を除く全てのファンドタイプで運用成績がプラス。「新興国株式型」は7%超、「先進国株式型」は6%を超える上昇となりました。
- 6月の資金流入動向では、全体で1.5兆円を超える資金が流入しました。特に「先進国株式型」には8558億円と、高水準の資金流入が続きました。

組み合わせ投資の値動きのシミュレーション（図表2）

- 前月の当レポートで、ポートフォリオのリスク（値動きの振れ幅）を抑えるためには「分散投資」が有効であり、相関係数という統計指標を使って、売れ筋の「海外株式型」ファンドとの組み合わせで相性が良いのは、「海外債券型」ファンドであると解説しました。
- 今月は相性の良い「海外株式型」ファンドと「海外債券型」ファンドを組み合わせ投資した場合の値動きについてシミュレーションしてみます。
- 「海外株式型」ファンド30%＋「海外債券型」ファンド70%の割合で組み合わせ投資すると、ポートフォリオのリターンは運用成績の良い「海外株式型」ファンドにひっぱられて、「海外債券型」ファンドだけに投資した場合よりも好成績になりました。
- リスクは、株式が入っているポートフォリオにもかかわらず「海外債券型」レベルまで低減し、値動きはなだらかになっています。
- 値動きの傾向が異なるファンドを組み合わせることで、異なる値動きの部分が相殺しあって、ポートフォリオ全体の価格変動リスクを低減することができます。これを「分散投資効果」といいます。



(図表3) ファンドタイプ別資金流入額(億円)

		国内株式	海外株式			国内債券	海外債券			代替投資		バランス	その他	償還	合計
		先進国株式	新興国株式	グローバル株式			先進国債券	新興国債券	グローバル債券	国内リート	海外リート				
2023年	7月	1692	2137	1281	1182	510	1235	188	75	68	11	662	426	▲292	9174
	8月	1958	2350	1203	1352	325	976	12	54	17	97	837	329	▲161	9349
	9月	1895	3494	1472	1370	158	708	53	1463	▲100	25	837	▲55	▲103	11217
	10月	3195	3861	954	1206	1404	▲142	▲84	622	▲57	91	559	190	▲306	11493
	11月	▲1058	1019	850	792	149	▲265	6	268	▲312	▲226	▲85	▲427	▲206	504
	12月	686	1276	1022	1094	▲23	202	▲61	430	▲430	▲493	▲179	▲253	▲141	3129
2024年	1月	1310	6109	1493	4017	▲164	145	▲35	▲25	▲199	▲188	625	▲133	▲161	12794
	2月	1454	6691	1556	3211	313	478	58	89	▲189	▲159	681	▲118	▲136	13930
	3月	1174	6334	1479	2515	161	489	▲18	264	131	▲99	694	48	▲275	12899
	4月	3238	4975	2030	2506	271	579	▲49	23	171	104	649	881	▲213	15164
	5月	1485	6583	2291	2605	105	270	35	636	▲51	▲197	990	▲116	▲302	14333
	6月	90	8558	2614	2663	187	599	8	▲42	▲83	▲160	1315	▲347	▲316	15088

出所：QUICK 資産運用研究所 2024年6月末時点 ▲は流出。対象は国内公募の全追加型株式投信（ETF除く）。QUICK 独自の分類。

七十七証券の運用成績ランキング

★騰落率3年ランキング

ファンド名	騰落率 (%)
1位 米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジなし	174.28
2位 新光ピュア・インド株式ファンド	99.17
3位 インデックスファンドNASDAQ100（アメリカ株式）	98.49
4位 ゴールド・ファンド(為替ヘッジなし)	88.21
5位 三菱UFJ 純金ファンド	86.01

★騰落率1カ月ランキング

ファンド名	騰落率 (%)
1位 サイバーセキュリティ株式オープン（為替ヘッジなし）	12.05
2位 新光ピュア・インド株式ファンド	9.98
3位 インデックスファンドNASDAQ100（アメリカ株式）	9.72
4位 netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	9.52
5位 野村米国ブランド株投資（米ドルコース）年2回決算型	9.20

出所：QUICK、2024年6月末時点、対象は七十七証券の取扱ファンド(国内追加型株式投信)
※騰落率は手数料を考慮せず、課税前分配金を分配時に再投資したものと計算、表中同率の場合は小数点第3位以下の数値でランキングしています。
※この情報は、当社が過去の実績順を基に集計・作成したものであり、将来の実績を保証するものではありません。

ご注意点

- 本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的として(株)QUICKが作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。なお、本資料のデータ・意見等は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を示唆・保証するものではなく、また将来予告なしに変更される場合もあります。
- 本資料の内容については、万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社およびQUICKは一切の責任を負いません。

投資信託に関するご留意事項

- 当資料は七十七証券株式会社(以下、七十七証券)が作成した資料であり法令に基づく開示資料ではありません。投資信託のご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は株式や債券等の値動きのある有価証券等を投資対象としますので、信託財産に組入れた有価証券等の価格の変動、金利の変動、発行者の信用状況の変化等により、投資信託の基準価額が下落し、投資元本を割り込むことがあります。また、外貨建て資産に投資する場合には為替の変動により基準価額が下落し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、投資信託は投資元本が保証されているものではありません。
- 投資した資産の減少を含むすべてのリスクは、お客さまが負うこととなります。
- 投資信託には、お申込手数料【約定金額に対し最高3.30%(消費税込)】ならびに換金時の信託財産留保額【信託財産に対し最高0.5%】が必要となり、保有期間中は運用管理費用(信託報酬)【純資産総額に対し最高2.42%(消費税込)】、監査費用、売買委託手数料等の諸費用、ファンドによっては実績報酬等が信託財産から支払われます。(当該費用の合計額および諸費用等の料率・上限額等については、約定金額や保有期間、運用実績に応じて変動しますので、事前に表示することはできません。)
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 投資信託のお取引は、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託には購入や換金可能日に制限がある場合があります。
- 七十七証券は販売会社(金融商品取引業者)であり、投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。

77 七十七証券
SECURITIES

商号等：七十七証券株式会社
金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号
加入協会：日本証券業協会